

後悔
しない

屋根材選び

屋根材は一番過酷な気象条件にさらされます。重量にとらわれず性能で選ぶことが重要です。高温多湿・寒暖差のある日本の屋根には、耐久性・断熱性・遮音性に優れた瓦が最適です。

重量を心配している方へ

瓦屋根とスレート屋根や金属屋根の木造住宅の「構造差はわずか」です。

解説 地震に負けない頑丈な家の条件は、十分な壁耐力がある家です。

- 地震に負けない壁耐力の長さは、床面積×必要な長さ÷壁倍率で算出します。
- 壁の仕様ごとに壁倍率（壁の強さ）が定められています。

仕様	30×90	構造用合板	30×90たすき	45×90たすき
倍率	1.5倍	2.5倍	3.0倍	4.0倍

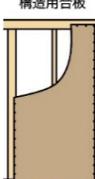
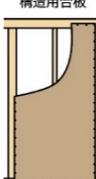
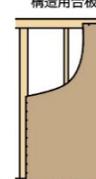
壁倍率の高い壁を使うと、間取りの自由度が高まります。

- 屋根材と外壁材の種類で必要な壁耐力の長さが定められています。（単位 cm/m²）
※令和7年4月施行建築基準法より、外壁材は全てサイディング仕様とする。

瓦屋根	スレート屋根	金属屋根
26 (2階)	22 (2階)	18 (2階)
44 (1階)	41 (1階)	37 (1階)

在来軸組工法、総2階、1階高3.0m以下、2階高2.9m以下、太陽光なし、軟弱地盤ではない、柱の仕様すぎ無等級材の場合

総2階の1・2階床面積 各15坪(49.5 m²)で比べてみましょう

	瓦屋根	スレート屋根	金属屋根
必要な耐久壁の長さ	1階 49.5 m ² ×44cm/m ² =2178cm 2階 49.5 m ² ×26cm/m ² =1287cm	1階 49.5 m ² ×41cm/m ² =2029.5cm 2階 49.5 m ² ×22cm/m ² =1089cm	1階 49.5 m ² ×37cm/m ² =1831.5cm 2階 49.5 m ² ×18cm/m ² =891cm
2.5倍(構造用合板)の壁枚数	1階 2178cm÷2.5倍÷91cm≒10枚 2階 1287cm÷2.5倍÷91cm≒6枚	1階 2029.5cm÷2.5倍÷91cm≒9枚 2階 1089cm÷2.5倍÷91cm≒5枚	1階 1831.5cm÷2.5倍÷91cm≒9枚 2階 891cm÷2.5倍÷91cm≒4枚
必要な壁枚数	構造用合板  16枚	構造用合板  14枚	構造用合板  13枚

※1階・2階 床面積の面積比や階高、太陽光の有無、地盤等により必要壁量は異なります。
※建物の形状により風圧力の必要壁量が上回ることがあります。

屋根材による
差は

構造用合板

わずか2~3枚

